

会議等経過報告書

1. 件名	令和4年度第2回大船渡市立図書館協議会
2. 日時	令和5年3月16日(木) 午後2時～午後3時30分
3. 場所	大船渡市民文化会館(1階展示ギャラリー)
4. 出席者	委員：藤村敏夫会長、金野洋子委員、佐々木規子委員、白木澤京子委員、千葉久委員 図書館：(市)新沼部長、熊谷館長、佐々木館長補佐、菅野係長 (指定管理者)大友総括責任者、中井業務責任者、小野寺副業務責任者
会議等の内容(要旨)	
<p>1 開会(進行：佐々木館長補佐) 委員出席状況の確認。出席5名、欠席1名。</p> <p>2 会長あいさつ(藤村会長)</p> <p>3 部長あいさつ(新沼部長)</p> <p>4 議事(進行：藤村会長)</p> <p>報告第1号 令和4年度図書館事業の実施状況及び利用状況(4月～2月)について(菅野係長説明)</p> <p>■ (千葉委員) 3ページのセルフ貸出利用率のグラフで、2カ所落ちている部分について説明をしてほしい。</p> <p>(菅野係長) セルフ貸出機を使わない形態の貸し出しが増えたと思われる。詳細については資料の手持ちがないため、不明である。後日、確認を行う。</p> <p>■ (金野委員) 利用者によっては窓口でのやり取りを望んで、セルフ貸出機を利用しない方もいると思うが、図書館としてセルフ貸出機のメリット・デメリットをどのように考えているか。</p> <p>(菅野係長) 導入時には、カウンターの人員を他のサービスの充実に振り向けることを考えていた。窓口のやり取りを含めて図書館を楽しむというニーズがあることは把握しており、引き続き行っていきたいと考えている。</p> <p>(大友総括責任者) アンケートで把握している利用者層をみると、年配の方の年代が非常に高い状況にあり、コミュニケーションを求められていると感じている。なお、毎月1日にセルフ貸出機推進日を設けて、職員1名を配置し、利用方法の説明などを行っている。</p>	

■（千葉委員）

図書館には古い蔵書やVHSがあると思うが困っていることはないか。学校では保管する場所がなく困っている。今後、貴重なものはDVDに保存しなおすなどの検討が必要ではないか。

（菅野係長）

図書館にはVHSのテープがあるが、ビデオデッキを持っている人があまりいないことや、テープが絡まることによる機器故障、資料の破損の恐れがあるため貸出はしていない。

（藤村会長）

データ化しないと再生機器がなくなって再生できなくなることもあるため、一度にすべて対応することは難しいと思うので、少しずつ考えながら対応してほしい。

報告第2号 令和4年度図書館資料の購入状況（4月～2月）について（菅野係長説明）

■（藤村会長）

アンケートで雑誌が少ないという意見があったと思うが、継続購入しているものはあるか。

（大友総括責任者）

近年、休刊する雑誌が増えてきている。所蔵している雑誌でも休刊したものがあることから、他のものに切り替えて対応している。切り替え時には、なるべく継続して揃えられ、役立つものを選定するよう心掛けている。

■（藤村会長）

子ども読書推進活動計画の中で、令和7年度末時点の児童書の蔵書冊数と割合の計画値が載せてあるが、選書の際に考慮しているか。

（大友統括責任者）

計画を意識して選書するようにしている。また、児童書の選書は、選書する職員の高い専門性も重要であるため、特に気を使って選書している。個人の趣向は様々であるため、特定のこの本が欲しいという要望もあるが、図書館として読んでほしい本、保管しなければいけない本との兼ね合いでの選定の必要があるため、趣向のみでの選定は難しい場合があることを了承いただきたいと考えている。

■（千葉委員）

郷土関連の本で、すでに手に入りにくい本もあることから、新刊だけでなく、そういった本も揃えてほしい。当校に古くから伝わっている気仙の歴史関係の資料を市に預けているものがある。後世に伝えていくものも揃えてほしい。

■（金野委員）

末崎中学校に末崎町の歴史など貴重な本がある。今後、学校統合する場合に、地区公民館や図書館と相談したいと思っているが良いか。

（中井業務責任者）

地域の貴重な資料であれば、図書館にお持ちいただきたい。

東日本大震災で三陸公民館図書室の郷土資料は失われてしまった。もしかしたら地域に残っている可能性もあるので、そういったものがあれば収集し、ぜひ図書館で保存したい。

報告第3号 大船渡市立図書館利用者アンケートの集計結果について（菅野係長説明）

■（佐々木委員）

問4の「ふだん、どのくらい図書館を利用していますか」について、2週に1回程度が多いのは、貸出期間が2週間のためと思うが、月に1回程度という方は返却期限を過ぎているということか。

（菅野係長）

閲覧利用の方と思われる。貸出以外にも勉強での利用や新聞の閲覧など、一時的な休憩など、様々な形でご利用頂いている。

■（白木澤委員）

一般のお店で、お客様の声に対して、店側の返事を入口に掲示しているところがあるが、今回の図書館アンケートについて、図書館の入口付近に回答を掲示、もしくは配布してはどうか。繰り返すことで、市民参加の図書館を作っていけるのではないか。

（中井業務責任者）

アンケート内容については確認して、できる限り回答したい。回答した人以外の人も、「そういった意見もあるのか」と分かる機会にもなるので、そのように進めたい。

■（白木澤委員）

椅子が硬いことについてだが、クッションを準備していると聞いているが、最初からおいてはどうか。また、クッションを敷いたスペースを作って、実際の利用がどうなるかなど試してはどうか。居心地の悪い椅子は人を追い出してしまうと思うので、どういう空間を市民に提供していくのかという観点でも考えてほしい。

（藤村会長）

現在の椅子は、開館時からの備品だと思うので、入れ替えは難しく、座面クッションをつけるなどの方法が、金額的にも現実的ではないか。一方で、付けたことによる手間が増えるということもある。どうすればできるかということを考えていく必要がある。椅子に限らず、蔵書数が増えてきた時の本を配架する高さ、スロープ途中のスツール配置など、検討する項目は他にもあると考えている。

（白木澤委員）

クッションについては、周知が足りないと感じるので、新着図書付近など手に取りやすい位置においてはどうか。

■（新沼部長）

問9の職員の対応の満足とやや満足が昨年に比べ、大きく向上している。この点は指定管理者の努力の結果と評価している。

また、セルフ貸出機の導入については、新型コロナウイルス感染症対策としての接触機会の低減、最近のデジタル化への対応という観点も含んでいることもご理解いただきたい。

■（白木澤委員）

アンケート回答の年齢層が高くなったことは、セルフ貸出機を利用していない理由の、操作がわからない、面倒、自信がないなどの回答に表れているのではないか。コロナの影響で会話をする機会が減っていることもあり、会話のやり取りがあるカウンターの利用につながっている可能性もあるが、逆に、「使ってみませんか」という話かけで、セルフ貸出機の利用につながるのではないかとも思っている。貸し借りだけでなく、コミュニケーションによる図書館利用の満足度が上がるのではないか。

(藤村会長)

各委員から、様々な意見を出していただいたので、できるところから進めて頂ければと思う。

5 その他

空調設備更新工事に伴う市立図書館の休館について (佐々木館長補佐説明)

■ (佐々木委員)

休館期間の移動図書館の運行は、従来のステーションと同じか。新しく転入してくる人たちは移動図書館車で借りられることや、どこに車が来るかなどがわからないと思う。ステーションが学校の場合、行きづらいと感ずることがある。ステーションとして地区の公民館を増やすことはできないか。

(熊谷館長)

運行スケジュール上、ステーションを増やすことは難しい。その代わりとして、図書館の臨時窓口を月1、2回開き、貸出・返却と予約本の対応をしたいと考えている。

(中井業務責任者)

新しいステーションを設置しても周知する期間が短く、休館中の3カ月のみの対応は、かえって利用者の混乱を招く恐れがある。図書館であれば場所が分かりやすいこともあり、臨時窓口という形で対応したいと考えている。また、移動図書館車が月1回であるのに対し、臨時窓口は月2回を想定している。周知については、3月13日から館内で始めており、市の広報でもお知らせする予定としている。

6 閉 会 (午後3時30分)